

群馬県商店街振興組合連合会 組合員講習会

群馬県商店街振興組合連合会（今川守会長）では、毎年、各地域の商店街を対象に、様々な経営課題に対応した講習会を実施しています。

本稿では、2月に開催した3つの組合員向け講習会をご紹介します。

前橋中央通り商店街（振）

2月14日、前橋市・COMM／フットワークステーションにおいて、「商店の販促に効果的なSNS活用方法」をテーマに講習会を開催した。講師は、おぐま式POP塾代表・小熊憲之氏。



小熊憲之氏

小熊氏は「SNSの本質はコミュニケーションであり、継続的な情報発信はもちろん、いかにして気の利いた商品コメントを書けるかが勝負となる。そのためには、売り手が自ら商品に対する使用実感を持つことが必要であり、実際に商品に触れてみることで、リアルなコメントを書くことが可能となる」と述べ、SNSを活用した販促のポイントについて解説した。

商店街（振）高崎中部名店街

2月15日、高崎市・組合事務所において、「自分たちの地域は自分たちで守る」をテーマに講習会を開催した。講師は、特定非営利活動法人わんだふる代表理事・赤羽潤子氏。



赤羽潤子氏

赤羽氏は「災害の際に最も大切なのは、自分の身は自分で守るという『自助』の精神である。加えて商店主には、来街者を守るという『共助』の精神も求められている。災害の際、来街者をいかにして迅速に安全な場所に避難させるかを日頃から考えておくことが商店街の安全・安心につながり、新たな街の個性となる」と述べ、地域商店街の役割を提示した。

桐生市末広町商店街（振） 桐生中央商店街（振） 桐生市本町六丁目商店街（振）

2月25日、桐生市・桐生商工会議所会館において、「人と人とのつながり」商店街のコミュニケーション」をテーマに講習会を開催した。講師は、株式会社Feel Communication代表取締役・桐生純子氏。



桐生純子氏

桐生氏は「来街者は商店主や店員から受けた印象をそのまま街や地域の印象としてとらえがちである。地域の顔である商店主は日頃から心のこもった挨拶や相手の話に真摯に耳を傾ける姿勢を心掛け、来街者に『共感』や『安心感』を与える存在になってもらいたい」と述べ、商店街におけるコミュニケーションの要諦について語った。